

がんばろう 南三陸町 復興第 43 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

志津川地区町づくり協議会「輝くみらいづくり部会」参加報告⑩

10 月 13 日と 20 日に半年ぶりに志津川地区まちづくり協議会の部会が、会員の約 10 名が参加しポータルセンターで開催された。

今年度初めての協議は、志津川市街地の 3 地区の団地と低地部の商店街、地元商店の造成やかさ上げが進む中で、中央区団地に整備される「生涯学習センター」について議論が交わされた。

3 階建ての「生涯学習センター」は、図書館(800㎡)・公民館(1700㎡)・供用部分(400㎡)で、全想定面積は約 3000㎡で計画されている。

協議会の部会員からは導入機能について「小さな子供の遊べるスペースがほしい」や「防災

学習の資料館や避難訓練の機能を」、ゾーニングについては「2 階にくつろぐスペースが必要」「公民館の空間は大人が子供たちに目が届く程度に」、その他として「公民館は青年会が集まれる場所だった」「人を呼び込む事を考えて」「年齢に関係なく気軽に利用できる場所に」「住民からの図書の提供を可能に」、など多くの施設への要望が出された。



生涯学習センター

防災対策庁舎の動き(7月) ⑨ —(終わり)—

● 6 月 30 日に南三陸町佐藤仁町長は、防災対策庁舎の議会で決定した解体を撤回し、県有化の 20 年間保存の受け入れを表明した。防災庁舎の保存により震災を伝え、議論の時間が必要と話した。

● 6 月 26 日の歌津で開催された「移動町長室」は、役場職員・町民の遺族の意見を伝える最後の機会となったが、解体を望む声は町長には届かず、解体希望の遺族との合意形成は難しかった。防災庁舎保存は、初期費用や維持管理費など町の大きな負担となるなど、当初は「解体」の理由に上げられた。これまでの経緯に佐藤町長は苦渋の決断だったと話す。県知事からの県有化 20 年は、国・県からの保存の「風」があり町

民の意見公募と 30 代の若者たちの請願が後押しとなった事によるもので、「防災庁舎一時保存」の道を選んだ。20 年の期間の中で町民の議論の場は行政の積極的な取り組みが求められる。

● 防災庁舎 43 年まで保存は町長が代わっても変わりなし！？

村井知事は、首長が代わっても平成 43 年度までは解体されることなく、保存の是非が議論できるよう、町側と財産譲渡を含めた協定を締結する方針を示し、佐藤町長もこれに応じた。

● 防災庁舎の県有化への町長の行政報告があり、建物の無償譲渡と敷地の無償貸与で考え、具体的な事務手続きを進める。

私もその中の一人で、一つの提案と解決方法として演じられたのが、何度も「ごはんまだ。」という母に「お母さんせんべいでも食べてて」「ご飯できたら声掛けるから」との言葉で、母のご飯が食べられないイライラを、柔らかに落ち着かせる対応がここにある。つつい家庭仕事の忙しさの中で、優しさの無い言葉を向けてしまっている事に気づかされた。母の認知は病気で、強い言葉で何度も叱るような口調は、病気として見た「認知症」の悪化となる。上手く病気と付き合う方法を教えてくれた。

我が家でも震災後に、仮設の不自由な暮らしの中で、母の認知症が一気に進み、身体の不自由と重なり、父の母への介護が始まり、家事などの昼間の疲れと心労が、母をベットでの力ずくの梗塞へとなり、少しの間家族の苦しみがあった。私も昼間の被災再建の仕事の疲れから、夜の就寝ができない事に力による行動を取ってしまった。父の一日の介護から比べれば、夜だけのいっしょの生活はまだ楽だったかもしれない。

こんな環境に生きて来た私たち家族にとっては、町の高齢者の家庭の見回りと指導は力強いものとなった。この寸劇から 4 年前の出来事を思い出した。現在は母を施設に、父は週 2 回のデイサービスに行きはじめ、バラバラながら個々に安定した生活環境の中、南三陸町で暮らしている。

必ず家族が通る道、介護との上手い付き合いは、行政の支援を活用する事と、民間の施設を知りお金は掛かるが利用する事で、家庭の平安と心の安定を生む。何も知らないままでの両親の認知は子ども達にとってはショックでもあるが、現実を直視し向き合う事で解決が出来る。

(町内で生き続ける町民より)



復興タコも応援

南三陸町福祉まつり 2015

介護は家庭で
悩まないで！

輝き劇団

ベイサイドアリーナで「南三陸町福祉まつり」が 10 月 3 日の土曜日に開催された。11 時 30 分ごろに出掛けたが整理番号で「226 番」だった。「餅まき」などの前半の行事や吹奏楽などの応援もあった割には、来場者の少なさを感じた。

ベイサイド周辺は来年度以降は災害公営が 5 棟でき、土地造成の後で住宅再建も始まり、約 363 世帯が東団地に住む事となり、志津川住民の一番大きな地区となる。

災害公営は平均年齢が「70 歳」と言われ、福祉社会がここにある。今回の高齢者や障害者への関係施設・介護用品の展示ブースが設けられ、生活支援の相談会も開催されていた。高齢者の町となる南三陸町には欠かせない活動と感じる。

催し物で「輝き劇団」は、認知症世帯の家族が抱える問題の解決策としての寸劇を、行政の「包括支援センター」の職員が演じてくれた。高齢者とお嫁さんの会話で、母が「はらへったなー、ごはんまだ・・・」と嫁に言う。「お母さんさっき食べたでしょう!」と話す。10 分してまた「ご飯・・・」と言う。何度も繰り返す母に「お母さんまた一・・・」と言いつつ。これが二度三度を続く。会場からは笑いの中に、今の現実が事実ある事を体験している人は真剣に見入っていた。

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成27年 (2015年)
～ 地元報道より ～

7月の出来事

7月の出来事上期

◇入谷地区に高齢者交流施設「晴谷驛（ハレバレー）」が1日に開所し、旧シルバー人材センターの会員など60人が集まり復活を喜んだ。場所は入谷鏡石の国道398号沿いにコンテナ2階建て（敷地面積2700㎡）で「びば!! 南三陸」が中心となり、NGOピースウィンズ・ジャパンから約8千万円の支援を受け建設された。施設では町内で暮らす高齢者や、元シルバー人材会員の「いぶし銀倶楽部」が行う陶芸・木工・習字などの趣味を通し、技能習得などで交流を図り活動をしていく。

◆気仙沼市「大谷海岸道の駅」の総会が本吉唐桑商工会で開催された。26年度の売り上げは1億300万円と昨年比で約102%増となった。また隣接の食堂部門は1割増の2,260万円となり、直売部門は4千万円と112%の伸びを見せた。本吉町産業振興公社の運営で、株主30名で組織される。

◇志津川地区の東地区東工区の15戸がこのほど引き渡しとなった。南三陸町では1番大きい造成工事区で345戸、町内の4割を占める。東工区は年度内に半分の造成が完了する予定としている。

◆気仙沼市内の多くの学校の廃校合併にあたり、「けせんぬま創生戦略会議」の分科会で、廃校を「子育ての場」とし具体的なアイデアを出し合った。

◆気仙沼市の人口が26か月連続して減少となった。6月末で人口は67,065人（-65）で、世帯数は26,175世帯（+12）となった。

◇南三陸町の介護資格初任者研修が4日に今年もスタートした。今年度は21人の受講のうち2

人の高校3年生が含まれる。基本的な介護業務取得には通常8～10万円かかる中で、町は受講費を1万円に抑え町民負担を軽減し、土・日曜日を開催日としている。不足している介護現場の戦力にと期待されている。

◇南三陸町入谷小学校（生徒86人）では、3年生の15人が水田観察会をおこない、水田の水路でオタマジャクシ・カエル・ドジョウ・タニシなどの生き物などの自然に触れた。

◆気仙沼市2割増プレミアム商品券「ホヤぼーや商品券」が11日から販売が開始され570店舗で取り扱いとなる。1000円券が12枚で、1セット12枚で12000円が使える。12枚のうち5枚は大規模店と小規模店で利用でき、専用券7枚は小規模店のみの使用となる。使用期間は27年12月31日までとなっている。

◆三陸道の「気仙沼湾横断橋」の海上工事始まる。道路は松崎高谷「気仙沼IC（仮称）」から唐桑町只越「唐桑南IC（仮称）」までの9kで、その一部の「大島IC（仮称）」までの1.344mの海上部680mで陸上部は664mとなる。全体の供用は平成23年度の事業化から約10年程度としている。気仙沼市の復興シンボルの工事が着々と進んでいる。

◇4日都内で、南三陸町にボランティア支援で来町した方々80名が一同に会した。町内の産業団体20名も参加して交流を深めた。今後も継続的な観光客としての来町を呼び掛けた。

南三陸町の漁業者・加工業者が「南三陸ブランド戦略協議会」を立ち上げ、地元のホヤ・銀ザケの燻製・缶詰などの商品開発にキリンマーケティングと日本財団が復興支援として6千万円を資金援助をする。協議会は歌津の「歌津うんめもの研究会」、志津川は「南三陸おふくろの味研究会」、戸倉は「戸倉漁師の会」の3団体で組織する。

◆26年の県内への観光統計概要によると、観光客は年間5,722万人となり、大震災前の93%ま

でに回復した。しかし、気仙沼圏域は海水浴場の再開が遅れ震災前の5割にとどまっていると分析する。

◇南三陸町立名足小学校では、20年間も続く長須賀海岸での、児童による「地引き網」がおこなわれ、地域の海の幸に歓声を上げた。

◇第2海上保安本部（塩釜市）では、本吉・気仙沼地区における灯台の復旧は気仙沼の15基が完了したが、南三陸はあと4基となった。

◆気仙沼市で名義貸し名目の特殊詐欺を岩手銀行の社員が窓口で阻止した。

◇南三陸町に4日、安倍首相が視察に訪れた。町内の復旧工事の状況や建設中の病院の進捗の説明を受け、仮設生活者とも意見交換した。総理は被災者の心のケアが極めて重要と述べた。

◆気仙沼市のプレミアム商品券は初日で完売となり、不満や不公平感が市民に漂っている。

◇農水省が南三陸町のホテルにおいて、養殖の生産技術の向上に向けた研究成果を発表した。小骨除去装置など先端技術研究を紹介した。

気仙沼市南町1丁目2丁目の店舗兼住宅が着工へ！

南町には4階建てと6階建ての各1棟ずつが建設され、1階部分がデイサービス・店舗・かまぼこ工場など入居し、2階以上に災害公営住宅を建設する。2階以上の36戸に被災者が入居する。建設は「合同会社・気仙沼南町復興まちづくり」が行う。魚町・八日町を含め4棟の建設には27億円の費用がかかり、市が土地と建物を約23億5千万円で買い取る事業が市議会で可決された。内湾地区災害公営として、早ければ来年5月には入居でき、新たな形での被災者の店舗兼住宅が建設される。

◇宮城県南三陸教育事務所（気仙沼市）で、子供たちの不登校や友人トラブルなど、子育ての悩みを持つ親同士が集まり、情報交換会が24日開催された。専門カウンセラーによるアドバイスなどを受けた。

7月の出来事は次号44号(11月22日発行予定)につづく

イ

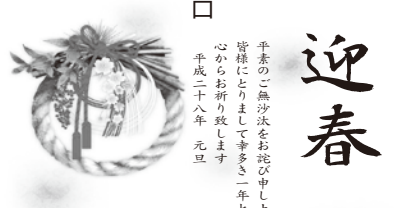


あけまして
おめでとぅございませう

皆様のご健康とご多幸を心からお祈り致します
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます
平成二十八年 元旦

〒九八六〇〇〇〇
電話(0)二二六〇〇〇〇〇番

ロ



迎春

平素のご無沙汰をお詫び申し上げます
皆様にとりまして幸甚一年となりますよう
心からお祈り致します
平成二十八年 元旦

〒九八六〇〇〇〇〇
電話(0)二二六〇〇〇〇〇番

ハ



謹んで新春の
およろこびを
申し上げます

昨年中はひとかたならぬご厚誼を賜り
誠にありがとうございました
本年も何卒よろしくお願い申し上げます
平成二十八年 元旦

〒九八六〇〇〇〇〇
電話(0)二二六〇〇〇〇〇番

ニ



初春のお慶びを
申し上げます

皆様にとつて希望に溢れる一年となりますよう
心からお祈り申し上げます
本年もよろしくお願い致します
平成二十八年 元旦

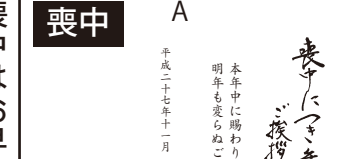
〒九八六〇〇〇〇〇
電話(0)二二六〇〇〇〇〇番

年賀・喪中 申し込み受付中！
TEL (0226) 46-3069 (電話申込が便利)

千葉総合印刷(株)
南三陸町志津川字沼田150-84
FAX 0226 - 46 - 3068

喪中

A



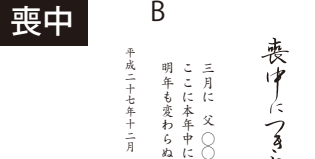
喪中につき年頭の
ご挨拶を速電申上げます

本年中に賜りましたご厚情を深謝致しますと共に
明年も変わらぬご交誼のほどお願い申し上げます
平成二十七年十一月

〒九八六〇〇〇〇〇
宮城県本吉郡南三陸町
電話(0)二二六〇〇〇〇〇番

喪中

B



喪中につき年末年始のご挨拶を
ご遠慮申し上げます

三月に父(〇)が八十八才にて永眠いたしました
ここに本年中に賜りましたご厚情を深謝致しますと共に
明年も変わらぬご交誼のほどお願い申し上げます
平成二十七年十二月

〒九八六〇〇〇〇〇
宮城県本吉郡南三陸町
電話(0)二二六〇〇〇〇〇番



〒郵便番号・住所 / 〒

申し込み用紙

名前

電話番号

枚数

申込番号

日の出とアワビの開口

ホ



明けまして
おめでとぅございませう

新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます
本年もどうぞよろしくお願い致します
平成二十八年 元旦

〒九八六〇〇〇〇〇
宮城県本吉郡南三陸町
電話(0)二二六〇〇〇〇〇番

喪中は電話注文でスピード仕上げ！